

考える方法、分析する方法

1. 物事を分けてみる
 - ・なるべく小さい単位要素に分けてみる。
 - ・問題は単位要素に分けたかたちで把握する。
 - ・概念的なものは一段次元を小さくする。より具体的なものにする。基本概念のブレークダウンを試みる。
2. 基本概念や検討対象は、それを成り立たせる上で何が欠かせないか考えてみる
 - ・これは本質志向とも重なるところがある。
 - ・もっとも重要な要素を明らかにすることで、そのものの基本的な性質を説明できる。
3. そのもの、そのことの本質は何か考えてみる
 - ・本質的要素を追求する。
 - ・そのものの成り立ちに遡って本質を考えてみる。
4. それの目的は何なのか考えてみる
 - ・それはそもそも何のためのものか。目的志向で考える。
 - ・どういうことに役立つのか。
 - ・もともと何を志向していたのか。
 - ・その本来あるべき姿は何であったのか。
5. 物事のあるべき姿、理想型について考えてみる
 - ・どういふかたちが本来的に望ましい姿であるか。
6. 基礎概念等は、それが意味する範囲について明確にする
 - ・基礎概念を性格に駆使できるようになるには、その意味範囲について敏感になる必要がある。
 - ・漠然とした受けとめ方で基礎概念は使わない。自分でしっかりその具体的内容を説明できるようにある。そのためには、基礎概念の範囲について敏感になり、それを具体的なかたちで説明できるようになるのは不可欠の能力である。
7. 二項対比の方法で考える
 - ・物事を二元軸の中に置き、二項対比的な枠組みでその特性を浮かび上がらせる。
 - ・物事の特性や、要因の特性を明らかにするのに便な方法である。
8. 要因相互の間の相関関係があるかないかに注意する
 - ・要因同士がどのような関係にあるか見抜くのに基本的な方法となる。

9. ツリー展開で考える

- ・物事の要因分析等をツリー展開図で考えることも有力な方法となる。

10. 原因と結果の対応関係や連関関係を見逃さないようにする

- ・原因と結果の関係を常に追うことは、きわめて基本的な分析方法の一つである。

11. 比較という方法を駆使する

- ・比較することにより、物事の特徴が見えてくることは多い。
- ・同一業種、同一業界、同規模等での企業比較。
- ・業績比較。
- ・財務の図解による財務構造の比較。
- ・ベンチマークの対象となるものとの比較。
- ・課題・テーマの共通性という観点からの比較。

12. プロセス思考で考える

- ・物事の動きをプロセスでつかみ、その特性を浮かび上がらせる。
- ・物事の動きをステップ化し、そこでの特徴的な動きをつかむ。
- ・事業のようにプロセスを経なければならない対象を見るには有益である。

13. パターン化で考える

- ・思考のパターン化、分析方法のパターン化、解決方法のパターン化から、各種事務処理のパターン化、書式・様式類のパターン化による効率化まで応用範囲の幅は広い。

14. 図解化により考える

- ・これもきわめてよく使われ、かつ応用範囲が広い方法である。
- ・財務構造の図解化も理解しにくい財務を視覚的・全体的に理解する有力な方法となる。

15. 問題の置き換えを図る

- ・問題解決にあたっては、きわめて有力な方法となる。

<資料、数値等を読みとる方法>

1. 資料を大局的、全体的に見る。

資料の目的や本来的優先度からして、大きな事実関係としてまず優先的に何に着目すべきか考える。数値や情報で何が大事か、見きわめる力となる。

2. 資料から読みとろうとするものの狙いを明確にする

何を明らかにしようとしてこの資料にあたっているのか再考する。これにより、注意して見るべき項目や数値も決まってくる。

3. 資料の中で重要な項目は何なのか見きわめる

当然のこと、重要な項目はさほど多くない。どれが重要な項目かよく検討する。

4. 主要項目はさらに内訳項目で要因分析をする

主要項目の動きはさらに何により規定されているのか見る。項目を簡単な内訳項目に分けてみることである。

5. 基準値となるものは何かを考える

基準値と比較することで物事の特徴が見えてくる。

6. 特性値、異常値となるものに注意する

特性値、異常値となるものは、その実体的意味をよく考えるようにする。そこに検討対象の特徴も隠れている場合が多い。

7. 媒介変数や補助線を入れて数値を見る

これも分析対象、検討対象の特性を明らかにする有力な方法の一つである。